

アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム

2012年12月18日～19日に、アジアコスモポリタン賞の授賞を記念する「アジアコスモポリタン賞受賞記念フォーラム」が開催された。本賞は、東アジア域内における文化面、経済面での地域統合、域内格差是正、持続可能な成長社会形成などの点で優れた貢献が認められた個人・団体に対し、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）が贈呈する国際賞であり、今回のフォーラムは、第1回授賞を記念して開催され、4名に授賞がなされた。

大賞：国連貿易開発会議（UNCTAD）事務局長 スパチャイ・パニチャパック

経済・社会科学賞：コーネル大学政治学部名誉教授 ベネディクト・アンダーソン

文化賞：漫画家 井上 雄彦

メモラブル賞（特別賞）：インドネシア戦略国際問題研究所創設者（故）ハディ・スサストロ

【18日】

■開式

オープニングアトラクションとして、能楽笛方藤田流十一世宗家・藤田六郎兵衛氏、能楽小鼓方大倉流十六世宗家・大倉源次郎氏による能楽囃子が演奏された。「音取置鼓」「獅子」の2曲が祝いと清めの意を込めて奏でられ、授賞式会場に響き渡った。

続いて、ERIA事務総長の西村英俊氏が開式の挨拶で祝辞と謝辞を述べた後、東アジア地域で人と人との繋がりに大きな役割を果たし、諸国の発展に貢献した人物・団体を讃える本賞の趣旨が語られた。

また、東アジア全域の発展に貢献する中核機関として設立されたERIAの理念や研究内容についても紹介がなされた。

授賞式及び記念フォーラムの開催に際して、カンボジア協力平和研究所会長のノロドム・シリブッド氏、武蔵学園長の有馬朗人氏から祝辞とアジアの平和と発展へ向けたメッセージが語られた。

■授賞式

第1回受賞者の4名は、東アジアの16カ国を代表する経済・政策研究機関からなる推薦委員によって候補者として推薦された人物であり、選考委員による選考を経て授賞が決定された。壇上では、各受賞者へ正賞として吉野杉材を使用した盾と「コスモポリタン」をイメージした透明感のあるトロフィーが贈られ、副賞として奈良県の工芸品である赤膚焼の燈火器が贈呈された。

メモラブル賞を受賞したハディ・スサストロ氏は2010年に逝去したため、氏の教え子でもあるインドネシア戦略国際問題研究所所長のリザル・スクマ氏が代理受賞し、以下のように語った。

「本日の代理受賞は大変な光栄である。私は故人に学んだ学生で、師が今日この受賞の場に来ることができないことを残念に思う。師の功績が、こうして世界で認知されることは大きな喜びである。師は東アジア全域の経済発展に貢献した偉大な人物だった。私自身は師とは畑の違う防衛政策の専門家だが、師からは多くのことを学んだ。師が亡くなる2週間前に病院へ見舞ったが、師は変わらず地域間の経済協力につい

て考えていた。師の偉業と理念を継いで、いかに東アジアの安定と発展に貢献するか、それが残された者の責務と信じる。」

■受賞記念フォーラム

主催者である奈良県を代表して知事の荒井正吾氏が祝辞を述べたうえで、これを機会にますます奈良とアジアの縁が深まっていくようにとの思いが伝えられた。続いて、基調講演が行われ、ASEAN事務総長のスリン・ピスワン氏が「アジアの未来」と題して、奈良とアジアを繋いできた歴史を振り返り、未来に向けて新しいビジョンを創り出すことについてのメッセージを伝え、日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所長の白石隆氏は、「東アジアと日本」と題して、ERIAの意義と長期的な視点で東アジアを考える重要性について語った。

■受賞者による記念講演

まず、大賞受賞者のスパチャイ・パニチャパック氏が登壇し、熱を帯びた口調で受賞の喜びと東アジア共同体へのビジョンを語り、経済・社会科学賞受賞者のベネディクト・アンダーソン氏が、多くの国に暮らした自身の体験を交えながら、ナショナリズム研究へと進んだ自身の思いを伝えた。

文化賞受賞の井上雄彦氏は、司会者との対談方式で、漫画にとどまらない近年の活動なども振り返りながら、作品と人との繋がりへの思いを語った。

【19日】

■教育プログラム（受賞者による特別講義）

大学生を対象とした受賞者による「特別講義」が県内二つの大学で行われ、大賞受賞者のスパチャイ・パニチャパック氏が、帝塚山大学で「アジアと世界における貿易と投資」について特別講義を行った。また、経済・社会科学賞受賞者のベネディクト・アンダーソン氏が、奈良女子大学で「アジアのナショナリズム」をテーマに特別講義を行い、それぞれ集まった学生が熱心に耳を傾けた。

